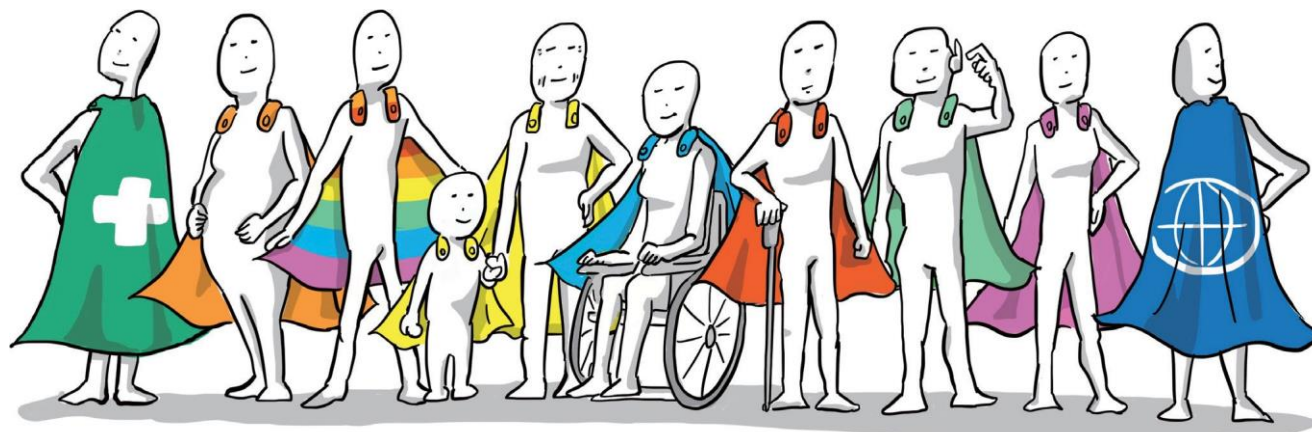


なぜやるの？どうやるの？
誰も取り残されないイベントの実現に向けて

みんなの イベント・ガイドライン



株式会社電通 パブリック・アカウント・センター / 株式会社電通ライブ

イベントから取り残される人をゼロへ。

イベントの価値、それは「体験」という
心ふるえる一瞬を創造し、分かち合うこと。

その一瞬は、時に人を動かし、変えてしまうほどの
大きな可能性に満ちたパワーを持っています。

長いコロナ渦でイベントというライブマーケティング活動の価値が
再認識された今こそ「みんな」がアクセスできるイベントについて、
「みんな」で考えてみる必要があるではないでしょうか。

たとえば、さまざまな国からやってくる異なる文化をもつ人、
障がいのある人、高齢者や子どもたち。

少し考えてみるだけでも、「みんな」は
実にさまざまな人々で構成されているのに
それぞれの人への配慮や工夫はまだまだ足りていません。
誰もが参加でき、イベントから取り残される人をゼロにしていくために。

電通と電通ライブは、新たなガイドラインを作成し
クライアントサービス向上と、DEI（ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン）に
根差した社会の実現をめざします。

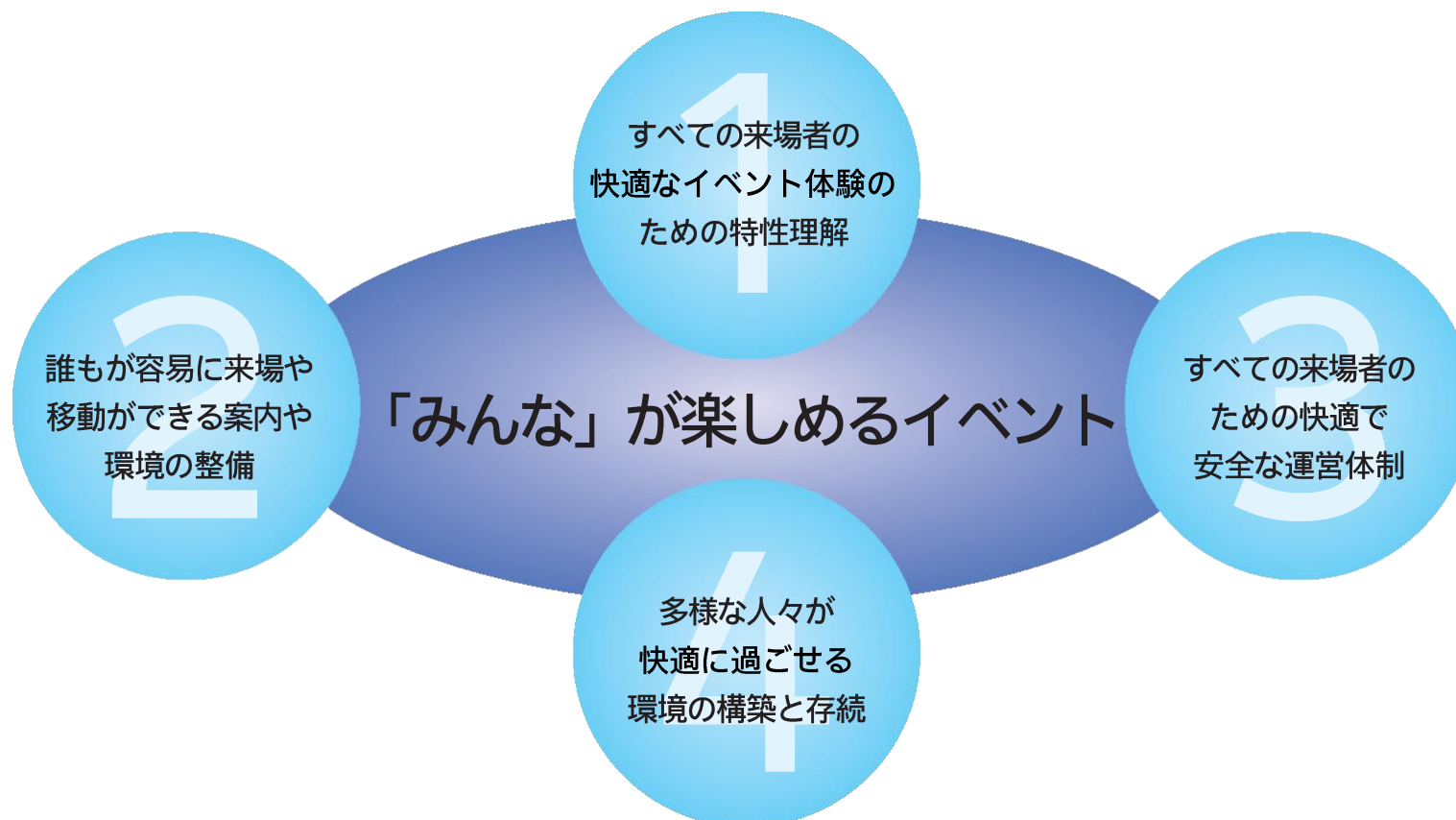
「みんな」が楽しめるイベントの企画構想とは

さまざまな人々が集うイベント。本当に「みんな」が楽しめるイベントとなっているのでしょうか。

企画構想の段階から誰も取り残されないイベントを考えることはとても大切です。

ユニバーサルイベントの視点で評価し、そのために必要な運営体制や会場設備、コミュニケーションツールなどを念頭に置いて、企画構想をスタートしていきましょう。

「みんな」が楽しめるイベントの4条件



一般社団法人日本イベント産業振興協会「基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント」をもとに作成

「みんな」の中には、どんな人がいるのだろうか

「みんな」の中には、障がいのある人や高齢の人、外国にルーツのある人など、外見から認識できる場合だけではなく、外からはわからない障がいがあったり、心配ごとを抱えている人もいます。

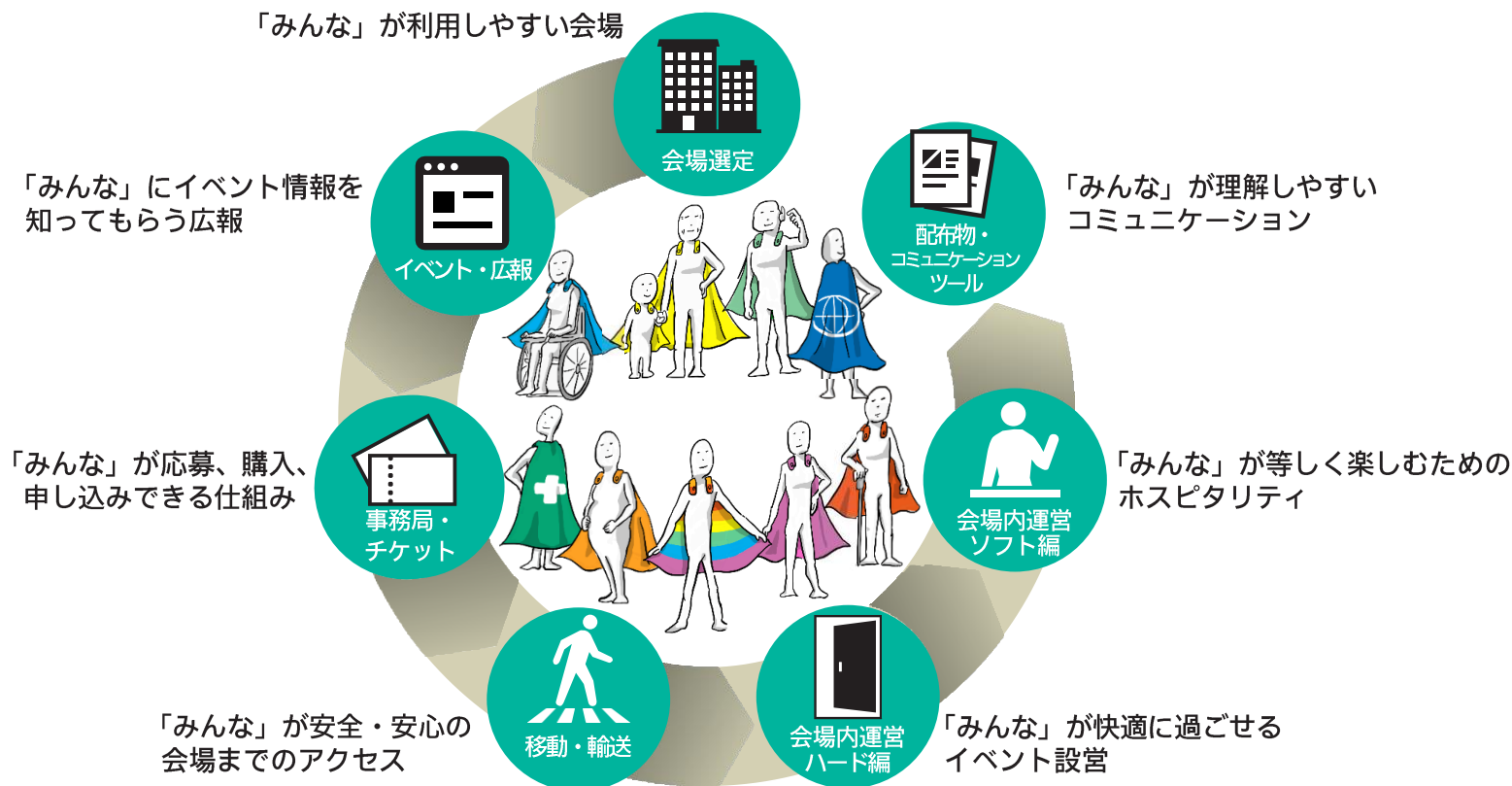
企画構想においてはそうした「みんな」の心配ごとや気持ちを、すべてのスタッフが想像し理解することからはじめましょう。



「みんな」がイベントに参加するまでの流れでポイントを整理

誰かが取り残されているイベントを、途中から「みんな」のイベントに変えるには、時間も、お金も、労力もかかります。初期段階から「みんな」が楽しめるイベントに向けて準備を進めることが大切です。イベントに参加するまでの流れの中のさまざまなシーンでユニバーサルサービスの環境を整えることで、「みんな」が楽しめる=参加するすべての人に「体験」という感動を届けるイベントを実現できます。

イベント参加までの流れ



「誰かのお困りポイント」を整理し、 「みんなのイベント実現ポイント」をガイドラインにしました

このガイドラインでは、障がいの有無、年齢、性別、国籍などに関わらず、より多くの方が等しくイベントに参加しやすくなるよう当事者の視点から、来場者のイベント参加までの流れをもとに、「みんな」が楽しめるイベントをつくるためのポイントを整理し、体系化しました。

1

徹底的な当事者視点で
イベント参加までの流れを
7つのシーンに分け

「誰かのお困り ポイント」を整理



2

各シーンごとの

「みんなのイベント 実現ポイント」

を下記をもとに体系化。

理解
する

「みんな」のアクセスを理解する

伝える

「みんな」にアクセスの仕方を伝える

環境
空間

「みんな」がアクセスできる環境（空間、ハード）を整える

運営
対応

「みんな」がアクセスできる運営（ソフト）を行う

① 会場選定

「みんな」が利用しやすい会場って？

ポイント

誰もが快適に過ごせる会場選定は、「みんな」が楽しめるイベントの第一歩。
最近のイベントスペースの多くは利用しやすさに配慮した設備を整えています、
バリアフリーとともに、文化の違いやジェンダー対応などについてもチェックしましょう。

「誰かのお困りポイント」

高齢者
幼児・小児

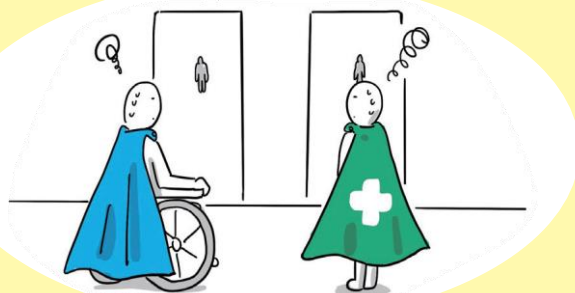
階段の上り下りは
疲れるな

肢体
障がい

杖や車いすでも
カンタンに会場内を
移動できるのかな

私でも使えるトイレはあるかな

内部障がい
肢体障がい
一部の
性的少数者



ムスリム

礼拝前に体を清める場所はあるかな

「みんなのイベント実現ポイント」

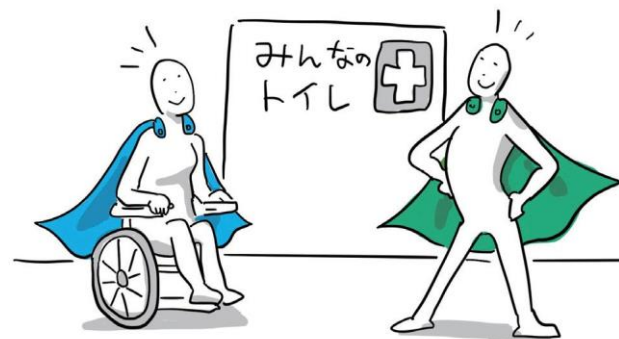
① エレベーターの有無とともに、
車いすでも乗車可能な広さや後方確
認のための鏡があるかなども
確認しましょう。

環境
空間

② 誰もが無理なく移動できるように
スロープや通路幅が確保されてい
るか、出入口の扉はスライド式
かなども確認しましょう。

環境
空間

③ オストメイト対応のユニバーサルトイレの有無の確認とともにジェンダー
フリートイレとしても利用できるよう表示するなどの工夫もしましょう。



環境
空間

④ 礼拝室（礼拝スペース）の近くの洗面所（可能であれば足が洗いやすい水場スペース）
を礼拝前のお清めができる場所として利用できるようにするなどの対応も
しましょう。

理解
する

② イベント・広報

「みんな」にイベント情報を知ってもらおう広報って？

ポイント

参加が想定されるさまざまな方に合わせた情報発信を心がけましょう。
障がいのある方やマイノリティの方々が取り残されない情報発信は多様な人に参加してほしいという主催者側の意思の表明にもなり、イベント自体の価値向上にもつながります。

「誰かのお困りポイント」

文字が読めない私でも
イベント情報が
入手できるかな

視覚障がい
識字障がい

日本語だけだと
イベントの内容が
よくわからないな

日本語
母語者以外

書いている文章が
難しく
よくわからないな

知的障がい
読字障がい

ウェブサイトでしか
イベント情報が手に入らないのかな

高齢者
IT苦手層



「みんなのイベント実現ポイント」

1 WEBサイトの文字は小さくて、高齢者や視力の弱い方には読みづらい場合があります。**文字の拡大機能**※や、**音声読み上げ機能**でそうした方のサポートをしましょう。

→巻末ソリューション
「見やすさコンサル」参照

伝える

2 日本語母語者以外も容易に情報が入手できるように**多言語対応**も行いましょう。英語と中国語に対応するだけでも情報発信の対象がかなり広がります。

→巻末ソリューション
「FACILiWOMi」参照

伝える

3 イラストを用いたり、センテンスを短くし**平易な文章**で書くことを心がけましょう。また必要に応じて**難しい漢字にはふりがな**をふりましょう。

→巻末ソリューション
「やさしい日本語」参照

理解
する

4 WEBサイトだけではなく、**ITが苦手な方にも親しみのある新聞、チラシやポスター等、さまざまな媒体**で告知しましょう。



※文字拡大機能は読み上げの際に妨げになる場合が多く、個々のPCで設定される場合があります。 みんなのイベント・ガイドライン

③ 事務局・チケット

「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組みって？

ポイント

チケットの入手や申し込み方法が限られていたり、複雑だったりすることは、イベント参加の大きな妨げとなります。誰でも応募、購入、申し込みできる配慮の行き届いた仕組みの導入や事務局づくりは、さまざまな方の参加を可能にするとともに、イベントの満足度アップに不可欠です。

「誰かのお困りポイント」

肢体障がい

わざわざチケット発券に行くのは大変だな



高齢者

WEBサイトでしか申し込みできないのかな

高齢者色覚特性

このWEBサイト見づらいな

耳が聞こえない私でも問い合わせできるかな

聴覚障がい

肢体障がい
内部障がい

同伴者が必要だからチケット料金が2倍になってしまうな

LGBTQ+

申し込みの性別欄に該当するものがなくて困るな

「みんなのイベント実現ポイント」

- 1 電子チケットを導入したり、自宅への郵送対応を行うなどの配慮をしましょう。またWEBだけではなく電話、FAX、郵送などによる受付や、窓口での販売など複数の手段による対応を準備しましょう。



運営
対応

- 2 お問い合わせ窓口は電話だけでなくメールやFAXでの対応も行いましょう。WEBサイトは簡易なデザイン・UI設計を意識しましょう。

伝える

→巻末ソリューション「見やすさコンサル」参照

- 3 障がい者と同伴者が半額になる(実質1名分の費用となる)障がい者割引を設定しましょう。

運営
対応

- 4 申し込みで性別欄を必須とする場合は「その他」の選択肢を必ず設けましょう。

理解
する

→巻末ソリューション「LGBTQ+コンサル」参照

4 移動・輸送

「みんな」が安全・安心の会場までのアクセスって？

ポイント

イベント会場の選定に配慮しても、会場への来場しやすさがおろそかでは元も子もありません。来場時に想定される交通機関やアクセスルート上に問題がないかを事前にチェックしましょう。迷いやすいところに誘導スタッフを配置したり、案内サインを設置したりして、誰もが安心して来場できるよう配慮しましょう。

「誰かのお困りポイント」

視覚障がい

駅から会場まで目が見えない私でも安全に行けるかな



肢体障がい

会場までの途中に車いすで通れない場所があったらどうしよう

最近外出していないので会場までの道のりが心配

高齢者

車でいきたいけど広い駐車スペースはあるのかな

肢体障がい

地図が読めないけれど会場まで行けるかな

視覚障がい
識字障がい

「みんなのイベント実現ポイント」

- 1 最寄り駅やバス停から会場までの点字ブロックやエレベーターの有無を確認するとともに、点字ブロックの上や車いすの通路に障害物が置かれていないかなども確かめましょう。

→巻末ソリューション「インクルーシブ・ヒント」参照



環境
空間

- 2 会場までの動線上のわかりにくいリスクポイントには誘導スタッフを配置しましょう。リスクポイントとなる場所は写真を入れるなど、誰にもわかりやすいアクセスマップを準備しましょう。

→巻末ソリューション「ダイバーシティ・アテンド検定」参照

運営
対応

- 3 会場の入り口近くに障がい者用駐車スペースを確保しましょう。また駐車場から会場までのスロープやエレベーターなどの動線も確認しましょう。

→巻末ソリューション「見やすさコンサル」参照

環境
空間

- 4 会場までの地図情報をテキストデータでも表示しましょう。テキスト化しておくことで視覚障がい者向けの音声読み上げ機能などにも対応できます。

伝える

5 会場内運営ハード編

「みんな」が快適に過ごせるイベント設営って？

ポイント

誰もが過ごしやすい会場を設営することで、はじめて参加者に「体験」という感動をお届けできます。さまざまな方がイベントに参加することをあらかじめ想定し、それぞれのニーズに配慮した会場計画・動線設計を行うとともに必要に応じて設備やスペースを整えましょう。

「誰かのお困りポイント」

子ども連れ

小さい子どもと一緒に
行くと楽しめるかな

人が多いところでは
パニックにならないか心配

精神発達障がい

肢体障がい

車いすだと受付が
高くて困るな

どこが入り口か
わかりにくいな

視覚障がい
聴覚障がい

車いすなので
絨毯だと一人で
動きにくいな

義足なので、
床が滑りやすいと怖いな

視覚障がい

盲導犬と一緒に
も入れるかな



宗教

決まった時間にお祈りしたいな

「みんなのイベント実現ポイント」

1 乳幼児連れの参加も想定しベビーカーを考慮した動線設計、授乳室や、男性でも入れるベビー休憩室を設置しましょう。参加者がパニックを起こした際に落ち着かせる部屋（カムダウンスペース）も手配しましょう。

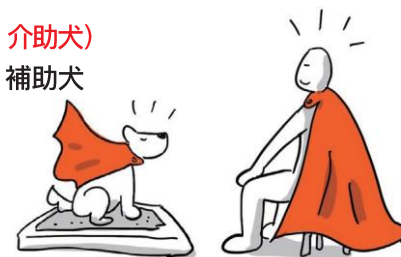
環境空間

2 車いすでも通れる通路幅の確保、すべての段差にスロープや簡易昇降機を設置、杖や車いすの方でも移動しやすい床面への配慮、あるいはスタッフを配置するなど対応しましょう。入り口の場所がわかるように案内サイン(多言語対応やピクトサインなど)や音声での案内も行いましょう。車いすユーザーや低身長の方に合わせた高さ(70cm程度)の受付や展示にも配慮しましょう。

環境空間

→巻末ソリューション「見やすいピクト」参照

3 補助犬(盲導犬・聴導犬・介助犬)同伴を受け入れるとともに、補助犬用のトイレも設置しましょう。



運営対応

4 ムスリムの礼拝室(礼拝スペース)を準備するとともにキブラ(メッカの方角)を示す矢印もつけましょう。

理解する

⑥ 会場内運営ソフト編

「みんな」が等しく楽しむためのホスピタリティって？

ポイント

ホスピタリティの語源は「客人の保護者」という意味を持つラテン語「hospes=ホスぺス」。単にサービスをするだけではなく、相手のために最善を尽くすという意味があります。すべてのスタッフがイベントに参加する方を思いやる気持ちを持つことが大切です。

「誰かのお困りポイント」

聴覚障がい

困ったら助けてくれるスタッフはいるかな

手話通訳や音声認識ソフトの対応はあるかな

アレルギーのある娘でも食べられるメニューはあるかな

アレルギー

ベジタリアンやビーガン、ハラール対応したメニューはあるかな

文化宗教



「みんなのイベント実現ポイント」

1 ホスピタリティに大切なのは、誰かが不便を感じていないか「気づく力」、そしてお困りごとはないですかと躊躇なく声をかけることができる「行動力」、さらに相手かどのようにしてもらいたいかを確認する「対話力」です。さまざまな特性のある方がいることを理解し、相手の気持ちに配慮して人格を尊重した対応をとれるよう、イベントに関わるすべてのスタッフに対して事前の教育を徹底しましょう。

→巻末ソリューション「ダイバーシティ・アテンダント検定」参照

理解する

2 困っていそうな方がいたらお声がけとともに、筆談・手話対応、音声翻訳ツールなども活用し、コミュニケーションを図りましょう。

→巻末ソリューション「ダイバーシティ・アテンダント検定」「UDトーク」参照

運営対応

3 食物アレルギーの方への情報提供は、卵、乳、小麦、えび、かに、落花生、そばの特定原材料7品目に加え、特定原材料に準ずるもの21品目についても答えられるようにしておきましょう。口頭ではなく紙に出力したものを必ずお渡ししましょう。

→巻末ソリューション「みんなのピクト」参照

運営対応

4 宗教や国、文化、個人によって食事制限の内容が異なります。すべてに対応するのではなく食材の情報を提供することで相手の判断にゆだねることも大切です。

→巻末ソリューション「みんなのピクト」参照



理解する

7 配布物・コミュニケーションツール

「みんな」が理解しやすいコミュニケーションって？

ポイント

イベントの目的は主催者が伝えたい情報を、見てもらい、触れてもらい、理解してもらうこと。せっかくイベントに参加してもらっても、情報を受け取ってもらわなければ実施する意味がありません。誰もが等しく情報にアクセスできること（＝情報保障）は最も大切なポイントです。

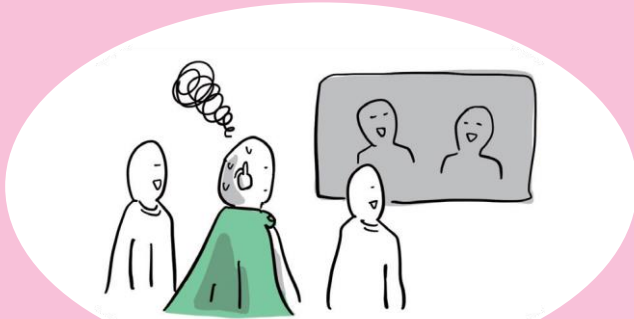
「誰かのお困りポイント」

視覚障がい

目が見えないので
パンフレットが読めない

聴覚障がい

耳が聞こえなくてもステージが楽しめるのかな



日本語
母語者
以外

日本語が
わからなくても
楽しめるかな

高齢者
弱視
色覚障がい

パンフレットの文字
が小さくて読めない

色の違いが
分かりづらいな

「みんなのイベント実現ポイント」

1 視覚障がい者向けに音声ガイドを導入しましょう。また図や表、写真などの紹介では、**言葉で説明を加える**などの理解しやすい情報発信を心がけましょう。

→巻末ソリューション「UDトーク」「Uni-Voice」参照

伝える

2 聴覚障がい者向けに**字幕対応**や**手話による情報保障**を確保するとともに、字幕や手話が見やすい場所に誘導するなどのサポートも行いましょう。口の動きで言葉を読んでいる方に配慮し、マイクを使う場合などは**口元が見えるように**しましょう。



運営
対応

3 音声ガイドやパンフレットなどの**多言語対応**を行いましょう。日本独特の事柄について補足説明するなど理解しやすくする工夫をしましょう。日本語が苦手な人にも配慮し「**やさしい日本語**」を心がけましょう。*

→巻末ソリューション「UDトーク」「Uni-Voice」「やさしい日本語」参照

伝える

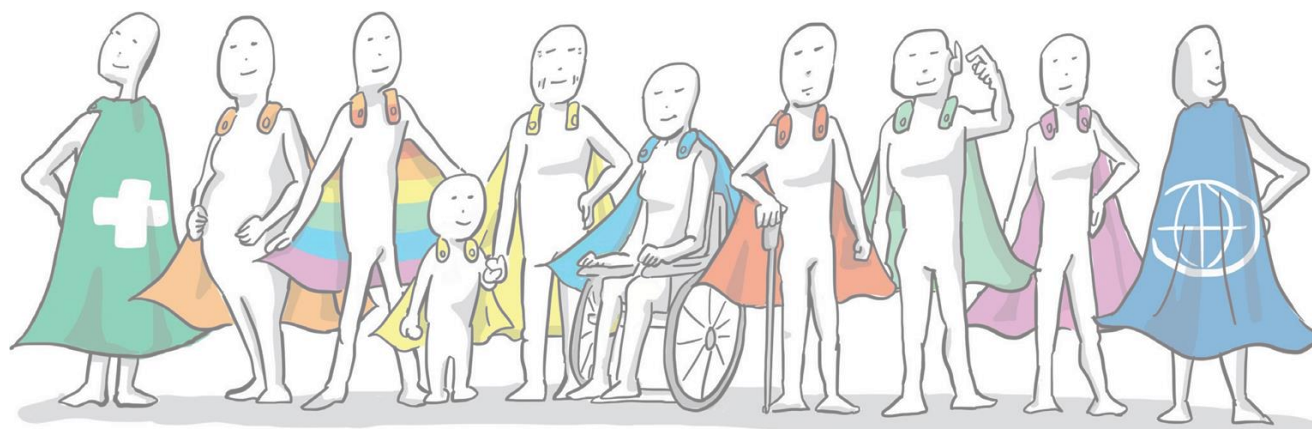
4 高齢者や弱視の方向けに**文字を拡大したもの**やイラストによる解説を付加したものを用意しましょう。*また色覚障がい者向けに事前に**色味の検証**もしましょう。

→巻末ソリューション「みんなの文字」「色のシミュレータ」参照

伝える

※SDGsの環境視点から紙を増やさないために多言語併記や文字拡大できるタブレットも活用しましょう。

「みんなのイベント・ガイドライン」 チェックリストの使い方





「みんなのイベント・ガイドライン」チェックリスト



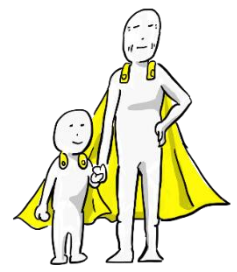
みんなのイベント・ガイドラインで説明している7つのシーンごとに、だれも取り残さないイベント実現の為に、対応すべきポイントをチェックリスト化しました

チェックリストの見かた①
イベント参加までの流れでチェック

チェックリストの見かた②
「みんな」の対象でチェック

チェックリストの見かた③
実施すべき項目をチェック

シーン	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ+	外国人・文化	チェック欄		チェック項目
													目標	達成	
「みんな」が楽しめるイベントの企画構想															
①企画構想	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			誰も取り残されないイベントの企画を検討する
「みんな」が利用しやすい会場															
①会場選定	●							●	●	●					「みんな」が移動できる動線を計画する
	●	●		●			●	●	●	●	●				「みんな」が利用可能なトイレを備える
「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画															
②イベント・広報		●	●		●	●		●		●		●			「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する
		●	●	●		●	●		●		●		●		読み手に配慮した、情報保障を行う



「みんなのイベント・ガイドライン」チェックリストの使い方

STEP
1

“取り組むべき項目をチーム内で協議し選定”

限られた予算や時間などの制約があるなかで全ての項目を実現することは容易ではありません。それぞれのイベントにおいて、何を優先的に取り組むべきかをチェックリストを基にチームメンバーで話し合い、実施すべき項目にチェックを入れていきましょう。



シーン	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ+	外国人・文化	チェック目標	チェック項目	実施する具体的な取り組み (※イベントの内容によっては、より強い配慮を求められることもあります。)
「みんな」が楽しめるイベントの企画構想															
①企画構想	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		誰も取り残されないイベントの企画を検討する	
「みんな」が利用しやすい会場															
①会場選定	●							●	●	●				「みんな」が移動できる動線を計画する	
	●	●		●			●	●	●	●	●			「みんな」が利用可能なトイレを備える	
「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画															
②イベント・広報		●	●		●	●		●		●		●		「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する	
		●	●		●	●		●		●		●		読み手に配慮	
「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み															
③事務局・チケット	●	●	●	●	●	●	●	●		●				「みんな」	
	●	●	●		●	●	●	●		●				多様なニーズ	
	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●			「みんな」	
	●	●	●		●	●	●	●	●			●		「みんな」	
「みんな」が安全・安心な会場までのアクセス															
④移動・輸送	●	●	●				●	●	●	●				「みんな」が容易に会場まで移動できることを確認する	
	●							●						障がい者用駐車スペースの有無及び設置場所を確かめる	
	●	●	●				●	●	●	●				「みんな」が容易に会場までの誘導を行う	
	●						●	●	●	●				「みんな」が容易に会場までの移動手段を手配する	

選定した項目の「チェック欄（目標）」の枠に「✓」を入れる



「みんなのイベント・ガイドライン」チェックリストの使い方

STEP
2



“目標にチェックした項目の具体的な取り組み内容を決定してリストに記載”

実施すべき項目が決まったら、次にそれぞれの項目においてどういった対応をすべきなのか、具体的なアクションについて話し合い、対応策をリストに記入していきましょう。これでリストは完成です。リストを基に実施に向けて制作を進めていきましょう。

シーン	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ+	外国人・文化	チェック欄		チェック項目	実施する具体的な取り組み (※イベントの内容によっては、より強い配慮を求められることもあります。)
													目標	達成		
「みんな」が楽しめるイベントの企画構想																
①企画構想	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			誰も取り残されないイベントの企画を検討する	
「みんな」が利用しやすい会場																
①会場選定	●	●						●	●	●					「みんな」が移動できる動線を計画する	
「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画																
②イベント・広報	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み																
③事務局・チケット	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					「みんな」が購入（応募）しやすい仕組みを検討する	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					「みんな」が問い合わせしやすい事務局を構築する	
「みんな」が安全・安心な会場までのアクセス																
④移動・輸送	●	●	●					●	●	●	●				「みんな」が容易に来場できる会場までのルートを計画する	
	●	●	●					●	●	●	●				障がい者駐車スペースの有無及び設置場所を確かめ	
	●	●	●					●	●	●	●				「みんな」が容易に来場可能な誘導を行う	
	●	●	●					●	●	●	●				「みんな」が容易に来場可能な移動手段を手配する	

「✓」を入れた項目の「実施する具体的な取り組み」欄に
対応策を記入



「みんなのイベント・ガイドライン」チェックリストの使い方

STEP
3

“達成できた項目にチェックを付け、次回に向けた改善点を検討”

イベントが終了したら、今回のイベントで事前に計画した項目に対して、何が達成出来て何が達成出来なかったのか、また、次回に向けての改善ポイントなどをチームメンバーで話し合い、チェックリストの「次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点」欄に記入していきましょう。

1回のイベントで全ての問題を解決することは簡単な事ではありません。イベントを実施して終わりではなく、次回に向けての改善点を議論してそれを実践いくことが、誰も取り残されないイベントの実現につながっていきます。



シーン	肢体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神・発達障がい	低身長	高齢者	妊婦	幼児・乳児	LGBTQ+	外国人・文化	チェック項目 目標 達成	実施する員以外の取り組み (※イベントの内容によっては、より強い配慮を求められることもあります。)	次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点
「みんな」が楽しめるイベントの企画構想															
①企画構想	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	誰も取り残されないイベントの企画を検討する		
「みんな」が利用しやすい会場															
①会場選定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	「みんな」が移動できる動線を計画する 「みんな」が利用可能なトイレを備える		
「みんな」にイベント情報を知ってもらう広報計画															
②イベント・広報	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	「みんな」が情報を取得しやすい方法で、告知する 「みんな」が楽しむために必要な情報を明記する 読み手に配慮した、情報保障を行う		
「みんな」が応募、購入、申し込みできる仕組み															
③事務局・チケット	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	「みんな」が購入（応募）しやすい料金設定を検討する 多様な二 「み 「み 「み		
「みんな」が安全・安心な会場までのアクセス															
④移動・輸送	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	「み 障が 「み 「み		
「みんな」が快適に過ごせるイベント設置															
⑤会場内運営ハード編	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	段差の 「みんな」が通りやすい通路環境を整備する 「みんな」が安心・安全な会場環境を整備する 「みんな」が快適に過ごせる仕様の会場設置を行う 「みんな」に配慮した諸室の設置		

「次回実施に向けた改善点、引き継ぎたい点」欄に引き継ぎ事項を記入

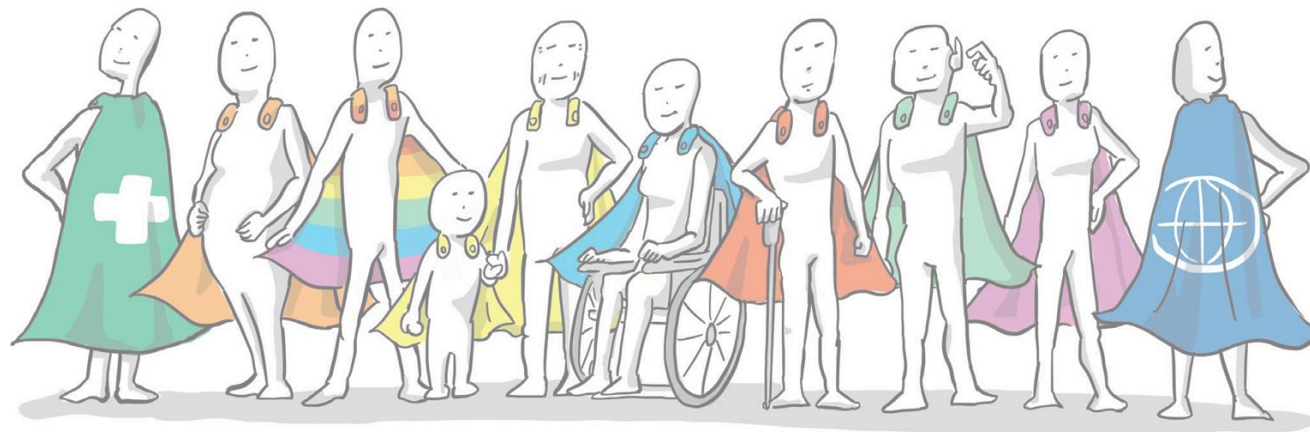


「みんなのイベント・ガイドライン」 チェックリスト

ダウンロードはこちら



https://www.dentsu.co.jp/sustainability/sdgs_action/excel/checklist.xlsx



おわりに

車いすユーザーのための動線が確保されていない。

視覚障がい者の目となる盲導犬の入場が認められていない。

聴覚障がい者への情報保障が少なすぎる。

感覚過敏の子どもが安らげるスペースがない。

楽しいはずのイベントには、さまざまなバリアがあります。

楽しいはずのイベントで、傷つく人がいます。

障害者差別解消法が改正され、企業にとっての「合理的配慮の提供」が「義務」になる時代だからこそ。

私たち電通／電通ライブは、

国や官公庁、企業などとの、国内随一の実績を誇るイベント・スペース領域で、

業務を通じて磨き上げた企画力と実行力を、

「みんなのイベント・ガイドライン」に集約させました。

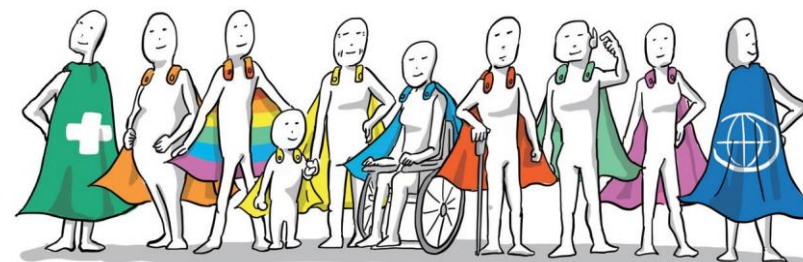
すべての「みんな」が参加できるイベントにするために。

参加する「みんな」に「体験」という感動を届けるために。

主催する「みんな」が「体験」という最良のライブマーケティングを行えるように。

イベントから取り残される人をゼロへ。

そんな社会を一緒につくりませんか。



※本ガイドラインはリアルなオフライン型のイベントを対象に作成しています。

ここであげられるのは基本的なチェック項目です。実務においては必要な部分を適宜付加しながら運用してください。

※本ガイドラインは、今後も皆さまのご意見、ご要望をもとに定期的に更新を行ってまいります。

参考資料：「みんな」のイベントに役立つソリューション

みんなの文字

「みんなの文字」は、視力や見る環境、印刷などの提示環境が「劣化した状況でも見やすく」をテーマに、人間中心設計のプロセスと科学的基準により開発された、第三者認証であるUCDA認証を取得している唯一のUDフォント。

※本冊子は「みんなの文字」を使用しています。

みんなの会議

障がいの有無に関わりなく、多様なニーズのある人々が参加可能な会議を実現し、参加者みんなが積極的に意見を交わし、互いのニーズを取り入れることを可能にする。公益財団法人共用品推進機構が「みんなの会議（アクセシブルミーティング）」として推奨。

見やすさコンサル

科学的根拠を用いて、誰もが見やすい「みんなの文字」「みんなのピクト」「みんなのサイネージ」などのUDコンテンツをデザイン開発。UDサイン・カラーUD・点字・情報保障のコンサルティング。電通ダイバーシティ・ラボ提供。

やさしい日本語

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語。阪神・淡路大震災をきっかけに考え出され、外国人への情報提供手段として全国的にさまざまな分野で広まっている。

LGBTQ+ コンサル

LGBTQ+理解のための基礎知識とマインドセット醸成によるインクルージョン促進を目指し、DE&Iに取り組む上で個人・企業などが必須で知っておくべき基礎知識とアクションについてのコンサルティング。電通ダイバーシティ・ラボ提供。

インクルーシブ・ヒント

施設環境のダイバーシティ対応やユニバーサル化などに対し、多様な当事者と施設関係者を巻き込んで、さまざまな視点に触れ、議論することで、新たなアイデアの種や施策のヒントを生み出す電通ダイバーシティ・ラボが提供するプログラム。

ダイバーシティ・アテンダント検定

「ダイバーシティ・アテンダント検定」は障がい者や外国人をはじめ、多様なニーズのあるお客様への適切な対応ができるダイバーシティ・アテンダントを育成するプログラム。配慮が必要な対象について広汎で必要最低限の知識と対応技術を学ぶ。

見やすいピクト

外国人や子どもでも直感的に理解できるピクトグラム。電通ダイバーシティ・ラボが、細い線などを極力なくし、高齢者や視力の弱い方にも見やすく、色覚の多様性も考慮したカラーを採用してデザインするピクトグラムをニーズに合わせて開発提供している。

みんなのピクト

食品におけるわかりやすいアレルギー表示を実現するため開発。カラーユニバーサルデザインや高齢者の見え方にも配慮しており、日本で唯一、UCDAが「わかりやすさ」を認証したピクトグラム。

見やすいコロナ対策ピクト

コロナ対策における取組みをよりわかりやすく伝えるためのツールとして電通ダイバーシティ・ラボが開発し、無償提供されているピクトグラム。海外にルーツを持つ人にも伝わりやすい「やさしい日本語」表記と、通常の日本語の2種類制作。

新型コロナウイルス対策マニュアル

電通ライブが制作。コロナ禍におけるリアルイベントの「安全」「安心」な実施に向けての感染防止対策に加え、リスクアセスメントなど企画およびプランニング時のサポートツールを掲載。医療専門家監修。

FACIL'iti / WOVN.io

「FACIL'iti ファシリティ」は、WEBサイト利用時に、視覚、動作、認識の3つの軸でWEBサイトの多様性への対応をサポートするソリューション。

「WOVN.io (ウォーヴン・ドットアイオー)」は、WEBサイトを43言語に多言語化できるソリューション。

UD トーク

コミュニケーションのユニバーサルデザインを支援するためのアプリ。視聴覚障がい者間コミュニケーション、多言語コミュニケーション、世代間コミュニケーションの3つのコミュニケーションを実現。

Uni-Voice

音声コード「Uni-Voice」は文字情報を二次元コードに変換する情報インフラシステム。無料アプリでスマホほかデジタルデバイスにて受信。印刷物のコード、WEB情報の集約サイトで多言語、視覚障がい、高齢などで読めない、読みづらい方に情報提供。プッシュ通知も可能。

色のシミュレータ

「色のシミュレータ」は、さまざまな色覚特性を持つ人の色の見え方を検証するためのアプリ。内蔵カメラから得た動画像をリアルタイムに変換し、それぞれの色覚タイプでどのように色が見えるのか、シミュレーションが可能。

本ガイドラインにおいて役立つソリューションの一部を掲載しています。上記以外にも活用できるソリューションは適宜参考にしていきましょう。